

令和5年度 第2回 前原小学校コミュニティ・スクール委員会

令和5年 9月15日(金) 13:10~14:50

参加したCS委員：梶野さん、亀田さん、村澤さん、伊藤さん、貞平さん、安東さん、野崎さん、森田さん

学校参加者：校長 小柳 政憲 副校長 板澤 絢子
*会議から参加 主任教諭 伊藤 聖 主任教諭 中願寺 智絵

- 1 校長室集合
- 2 4時間目授業参観
- 3 各学級での給食試食
- 4 家庭科室にて会議開始

校長挨拶：本日はご参加いただきありがとうございました。

給食はいかがでしたでしょうか。美味しかったですでしょうか。

3年で学級閉鎖がありました。

コロナ、インフルの他にも夏風邪が流行っている。

熱中症・暑さ指数で体育や休み時間の遊びができない。

子供たちのストレスの発散ができず心配している。

夏季水泳を熱中症警戒アラートの関係で6日間中止とした。

水温が下がらない。下校中に体調不良になることが心配。

校長会でも市に提案をする予定。

水泳の参加率39%でした。

今年度から「けやきステージフェスタ」は全学年が学芸会を行います。

- 5 本日の授業参観及び給食試食の感想

CS 森田：どのクラスも生き生きしている児童が多かった。タブレットも黒板も使用している。両立して児童が学習していた。5年2組の児童が生き生きしていて子供が笑顔だった。黒板も見やすかった。給食：2-3岡先生のクラス。元気な子が多く先生の言いつけを守ろうとする子、注意している子がいた。栄養士の出している用紙を担当が読んでいた。食育という意味でも感動した。作り手側の考えがよくわかった。

CS 亀田：どのクラスも一生懸命取り組んでいた。短時間の見学であったが、子供たちが質問をする場面を見たかった。給食：給食のない時代に育った。毎日こんなに美味しいものを子供たちが食べているのかと思った。体格の良い子は、よく食べていた。体の細い子は給食を残していた。

CS 安東：どの学年のお子さんでも聞く姿勢ができていた。先生の言ったことに反応していた。静かに聞いていた。タブレットを授業でうまく活用していた。メリハリのある、時代にあった授業をしていた。給食：自分の子どもたちの時も試食会にきていたが、今日も楽しみだった。子供たちが、「どうぞどうぞ」と案内してくれた。教室での子供たちの役割を聞いた。人懐っこくて素直な感じが伝わってきた。

CS 野崎：熱中症対策の関係で体育が室内で行われていた。先生方が工夫していた。体育を教室で考えてやるのが面白いと思った。挨拶をする子がいた。子供たち全体が受け入れてくれていることが素晴らしいと思った。給食：子供と一緒に並んで配膳をした。10分は、黙って食べた。おかわりをしている子が見られた。予想以上にいたので、良い傾向であると思った。放送も良かった。

CS 村澤：児童は授業をしっかり受けることができている。元気な声で子供たちが挨拶をしてくれた。1年生の授業でもタブレットを取り入れていた。幸せなことだと感じた。給食：隣のクラスにおかわりをもらいに行くことがあると聞いた。子供たちがお客様扱いをしてくれて、お礼を子供たちに言った。男女問わず、よくおかわりをしていて。

CS 伊藤：いつもは自分の子供の学年しかみていないので、他の学年のことも知ることができた。短い時間でも楽しそうに生き生きと活動していた。1年生で30人は多い。先生1人でまとめるのは、ありがたいと思った。給食：誰のお母さん？名前は？と聞かれた。子供たちが可愛らしかった。先生の話をよく聞いて、子供たちがよく成長をしていると感じた。1、2年生はにぎやかであったが、3年生以降はよく話を聞いていた。学習は、積み重ねが大切だと感じた。学校という場が貴重だと感じた。若い先生が生き生きと接していたので大切にしていきたいと思った。

CS 貞平：全体的に思ったのが、教科書がビジュアルライズされていて見やすいが、先生方も教材の工夫をしていた。タブレットと板書とうまく使っていた。給食：以前、給食の監査をした。消費税10%、ちゃんとした料理酒を使っていた。給食の指導の負荷が先生にかかる。先生たちの休憩時間にならないと感じた。

CS 梶野：椅子に座って授業を受けている児童は集中できていたが、実技で集中するのは難しいと感じた。給食：栄養士の作った用紙を担当が読みながら子供たちと交流したいがとても良かった。パンが少し大きいことを子供が教えてくれた。子供が配膳してくれた。片付けは、子供と一緒にやった。

CS 梶野：学校全体の雰囲気を、一連の流れで見られたのではないのでしょうか。とても良かった。今回のような初めての試みができればと思っています。ありがとうございました。

6 議案

(1) 対話アンケート（報告者：伊藤主任教諭）

→資料参照

<質問>

CS 安東：語彙力向上はどのようにするのか。

伊藤 T：言葉の宝箱を使い、語彙力向上の文章を書く授業を展開している。

CS 森田：どの学年が対象

伊藤 T：4、5、6年生が対象です。

CS 森田：クリティカルシンキング（批判的思考力）の育成とは？

伊藤 T：対話アンケートの結果から、昨年弱かったところは、今年も弱い。その弱かったところを中心に、先生方からの投げかけを工夫して必要がある。

CS 森田：放課後子ども教室でも5年生は元気がよく、よく喧嘩もする。5年生は、戦い慣れているし、関係修復も早い。

(2) 学力調査の結果（報告者：中願寺主任教諭）

→資料参照

<質問>

CS 伊藤：文章を書く力が気になる。書く時間が無いのか、（児童）自分で作ったものを先生がチェックしないと聞いたことがある。調査の結果を元に指導をしてほしい。また、読解力が無いと算数の問題を解けないと思う。文章を書く力をつけてほしい。

中願寺 T：文字数を制限されることは、子供にとってもハードルが上がると思った。それは、自分が学力調査の問題を解いて感じた。普段の授業でも感想を書く、要約をする、友達の意見を聞いて、自分の考えを文章化することが大切だと思う。慣れが必要だし、こつがわかるようになる。先生方にも授業の中で取り組みをするような工夫の提案を行った。前原小だけでなく、書く事自体が少なくなっているのも、学年の実態に依っている。自分のクラスでは、スピーチを原稿化して、日々続けられそうなことを実践している。

CS 梶野：読書習慣はあるのか？

中願寺：読書旬間は全校での取り組みが年2回ある。低学年は、司書が読み聞かせを行う。小さいうちから興味をもてるような活動をしている。本を手にとるところから、夏休みは5冊貸し出した。週3回の司書がいるときに開館している。全校でおすすめの本を魚の用紙に書いて、スイミーの形にしている。全校での取り組みで、図書委員発信にしている。

CS 伊藤：図書室へのハードルが高い。図書室の場所の問題がある。

CS 梶野：学校の教室配置の問題は、今後も考え行く必要がある。

CS 梶野：他に質問は、ありませんか。

質問が無いようですので、この二つ議案に賛同していただいたということによろしいでしょうか。

ありがとうございました。

続いて、情報交換です。何かございますか。

<情報交換>

CS 伊藤：学級閉鎖の連絡は、当該学級しかしないのか？サッカーの集まりでそのような話になった。周囲の保護者から、情報がほしいという要望があった。チームでのまん延を防げる。コロナの時は、伏せる傾向にあったが、最近は、無いように感じる。

校長：当該学級のためのメール配信にした。休ませようと思う家庭も多い。休むことへのハードルが低い家庭が増えた。オンラインをしてほしいと要望がくる。予防のために休む家庭が多い。

CS 梶野：コロナの弊害かもしれないが、両極端になっている。以前は、顔を合わせての会議ができないこともあった。

校長：本校の課題、不登校児童が多い。親が予防の判断をすると、登校しないということがあ。算数少数人数のことを考えると、学年にも情報を流すことにする。

CS 伊藤：子供が欠席すると電話してくれる先生と連絡をしない先生がいる。次の日の時間割や学校の様子が分からない。

CS 梶野：最近のニュースを見ても児童の事件がある。連絡ツールがたくさんあるので、うまく使っていないといけないといけない。

校長：基本的には、休んだ子供がいたら連絡する。

副校長：欠席連絡が来た場合には、必ず担任から折り返しの連絡がいきます。連絡帳で欠席連絡が来た際には、連絡帳で返事をする事や、メールや電話で欠席連絡が来た場合には、担任から保護者宛てに電話やメールを行っています。しかし、家庭への連絡が出来ていない事態があったとするならば、それは担任の連絡不足となります。申し訳ありません。今後、そのようなことが無いように、本校教員に伝えます。

CS 森田：様々な活動団体に学級閉鎖の連絡をもらえるとありがたい。

CS 村澤：集団下校のシーンを見かけた。子供も先生も雰囲気良かった。

校長：50人くらい集団下校の児童がいた。

CS 森田：放課後子ども教室参加率が高い。7月は校庭でゆとりをもって活動ができた。鼻血を出す子もいた。室内で活動できる日もあったのでよかった。

CS 伊藤：まえはらまなび～ 前回水曜日24名参加。3、4年の利用者が多い。(プリント、音読、おりがみ等) 4年生の使用の仕方に課題がある。他の教室に入り、学校の備品を使って遊ぼうとするので、注意をした。

CS 梶野：他にありますか。
無いようですので、続いて、事務連絡をお願いします。

副校長：次回のCS会議は、12月15日(金)10時から家庭科室で行います。
よろしく願いいたします。

CS 梶野：それでは、第2回CS会議を終了します。
ありがとうございました。